

JpGU 固体地球科学セクション セクションボード会合

日時：2021年6月7日 13:00-13:33

Zoom によるリモート会議

出席者：阿部なつ江、大園真子、大谷栄治、沖野響子、鍵裕之、片山郁夫、河上哲生、川本竜彦、久家慶子、島伸和、サティシュ・クマール、鈴木勝彦、高橋太、田上高広、武井康子、田所敬一、田中聡、田中佐千子、中村美千彦、成瀬元、西山忠男、針金由美子、福田洋一、前野深、森下知晃、吉田茂生（26名）

委任状：岩森光、ウォリス・サイモン、川勝均、中川光弘、道林克禎（5名）

議事次第

1. 2020年度のセクションの事業報告・会計報告について（資料1）

・2020年度のセクションの事業報告・会計報告（資料1参照）が田中聡セクション・プレジデントからあり、承認された。

2. 2021年度 事業計画・予算計画の承認について（資料2）

・2021年度のセクション事業計画・予算計画（0円）の説明（資料2参照）が田中聡セクション・プレジデントからあった。予算が復活するまで会計担当を一旦廃止するとの説明があり、計画とともに承認された。

3. 2020年度のフォーカスグループ（FG）の事業報告・会計報告について

・地球内部科学 FG の高橋太委員長から、2020年度活動報告と2021年度の活動方針（資料3）の説明があり、承認された。

・掘削科学 FG の森下知晃委員長から、2020年度活動報告と2021年度の活動方針の説明があり、承認された。

活動報告：①若手奨励賞を4名に授与、②ハードロック掘削科学ワークショップ Autumn2020 をオンライン開催、③JpGU で複数セッションを提案、④ホームページを活用した情報発信。

活動方針：①若手奨励賞選考、②JpGU でのセッション提案、など。

・表層変動熱年代学 FG の田上高広委員長から、2020年度活動報告と2021年度の活動方針（資料4）の説明があり、承認された。

4. 期限(2年間)を経たフォーカスグループの継続の可否について

・表層変動熱年代学フォーカスグループの今後の活動方針について、田上高広委員長から、設立の経緯、Thermo2020/2021 の紹介、Thermo2025 日本開催への準備状況の説明も含めて、継続提案の説明があった。

- ・ JpGU でのセッション提案（英語セッション、AGU・EGU との共催セッション開催）について田中聡セクション・プレジデントから質問があり、来年度 JpGU で英語セッション提案を準備中との回答があった。
- ・ 以上を踏まえ、同 FG の継続が認められた。

5. 2022 年度代議員選挙

- ・ セクションボードメンバーに代議員選挙への立候補検討要請があった。
- ・ ジェンダー・バランスへの配慮について要請があった。現在のセクションボードメンバー構成は、固体地球セクションのジェンダー構成を反映（男性 8 割、女性 2 割）しているとの報告があった。
- ・ 来年度のセクションボード執行部について、可能であれば同じ体制を継続したい旨の方針説明があり、方針が承認された。

6. JpGU2022 セッション提案

- ・ 英語セッションの提案を推奨する旨説明があった。

7. その他

- ・ 特になし。

資料 1

令和元（2020）年度事業報告

固体地球科学セクション

- ・代議員改選に合わせて、セクションプレジデント、バイスプレジデント、幹事ならびに固体地球科学セクションボードの改組を行った。
- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2020 がバーチャル開催になったため、セクションボードメンバーを招集し、Zoom によるセクションボード会合を開催した（2020 年 6 月 11 日）。会合では、新執行部承認、フォーカスグループの活動報告ならびに地球内部科学 (SEDI) フォーカスグループとハードロック掘削科学フォーカスグループの継続承認、セクションボード予算承認などを行った。
- ・Joint Meeting において、固体地球科学セクション（領域外・複数領域の担当も含み、全 83 セッション）では、56 件の英語セッションを開催した。
- ・Joint Meeting において、高校生ポスター賞を選考した。
- ・理事会からの依頼により、プログラム委員会委員 4 名（留任 3 名、新規 1 名）、顕彰委員会委員 2 名、情報システム委員会委員 1 名を推薦した。
- ・JpGU 2021 に向けて、固体地球科学関連学協会に E(英語)セッションの提案を依頼した。その結果、提案された固体地球 (S) セッション 55 のうち、E セッションが 15 (27%)、J(日本語)セッションが 40(73%)であった。
- ・JpGU2021 における固体地球科学セクション関連セッションと行事における活動を促進するために、外国人研究者の参加を働きかける。
- ・地球内部科学フォーカスグループ(SEDI FG)は、関連セッション (DFS と iPoster) に外国人研究者を計 3 名招聘した。2021 年大会に向けメンバーの拡充を行い、関連セッションとの連携強化、新規体制における今後の活動方針について検討を行った。SEDI FG のホームページを更新した。
- ・ハードロック掘削科学フォーカスグループ (掘削 FG) では、コミュニティーの将来を担う優秀な若手研究者 4 名に FG 若手奨励賞を授与した。ハードロック掘削科学ワークショップをオンラインで開催した。掘削 FG のホームページでハードロック関連情報を発信した。コミュニティーの活性化を目的とし、2021 年度の JpGU においてフォーカスグループの共催として複数のセッションの提案を行った。
- ・表層変動熱年代学フォーカスグループ (熱年代 FG) では、関連セッション (オンラインと iPoster) に外国人研究者 2 名を招聘した。また、メンバーを拡充し、今後の活動方針などの検討を行った。

他：JpGU バーチャルブース@AGU の対応。iPoster(JpGU-AGU2020)資料の修正

会計：2020 年度 予算 0 円

資料 2

令和 2（2021）年度事業計画

固体地球科学セクション

- ・ JpGU2021 における固体地球科学セクション関連セッションと行事における活動を促進するために、外国人研究者の参加を働きかける。
- ・ JpGU2021 開催期間またはその前後に、セクションボードミーティングを開催する。
- ・ JpGU2021 開催期間またはその前後に、セクション内のフォーカスグループのミーティングを開催するとともに、その活動を支援する。
- ・ 固体地球科学セクションの代議員とセクションボードの情報共有と意思疎通を促進する。
- ・ セクションの内部構造を充実させるために、さらなるフォーカスグループ創設を推進する。
- ・ 表層変動熱年代学フォーカスグループの継続審査を行う。
- ・ 固体地球科学セクションのホームページを充実させる。
- ・ フォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、さらに海外の組織と連携した国際会議を共催することを支援する。このような支援を通して、JpGU2022 における国際セッションの継続的な提案を促進する。
- ・ セクションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞の可能性を検討する。

会計：2021 年度 予算 0 円

予算が復活するまで会計担当を一旦廃止する。

資料 3

日本地球惑星科学連合 固体地球科学セクション
地球内部科学 FG

（1）2020 年度活動報告

高橋 太（委員長）、馬場 聖至（副委員長）、島 伸和（幹事）、大谷 栄治、
鍵 裕之、川添 貴章、田中 聡、土屋 旬、寺崎 英紀、中川貴司

- 1) JpGU に SEDI-J の核となる継続的メインセッションと関連する各種テーマセッションを立ち上げた。
- 2) SEDI-J 関連セッション間および、各セッションと委員会の連携強化を図るべく、委員の拡充を行った（土屋）。
- 3) 2020年7月に台湾で開催予定だった IUGG SEDI (The 17th Symposium of SEDI, SEDI 2020)は2022年へ延期された。

(2) 2021年度の活動方針

- SEDI-J の活動を継続するとともに、地球内部科学に関わる SEDI-J 以外の分野でも活動を行い、地球内部科学に関わる若手人材育成を含め研究分野の活性化を促す。
- JpGU において、SEDI-J として中核となる継続的なメインセッションと SEDI-J と関連するテーマセッションを行う。
- 2022年に台湾で開催予定の IUGG SEDI に学生や若手の派遣等必要な対応の検討および、措置を行う。
- 2024年に、日本(別府)で開催予定の The 26th Electromagnetic Induction Workshop (EMIW、2022年開催予定から延期) 支援のための準備を進める。
- 活動記録を定期的に FG ウェブページで公開し、当 FG の活動を地球内部科学分野および周辺関連分野の研究者に広く周知する。

資料4

2021年6月7日

JpGU 固体地球科学セクションボード

【表層変動熱年代学フォーカスグループ】2020年度活動報告

表層変動熱年代 幹事委員会

2020年度の【表層変動熱年代学フォーカスグループ】の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

◆ FGメンバー打ち合わせ

- 2020年7月14日に、FGコアメンバーでの打ち合わせを実施した（於・オンライン開催）。主な議題は以下の通りである：新規加入コアメンバーの紹介と問題意識の共有、Thermo2020のpre-registration、前年度の活動報告（FG設立、コアメンバー会合、HP・ML・ロゴ作成、

JpGUセッション提案)、今後の活動計画(Thermoの日程確認、次回JpGUのセッション準備など)。以上の内容については議事録を作成し、当日欠席したコアメンバーにもメールで情報共有した。

- 上記に加え、役員3名(田上、長谷部、末岡)で、Zoomやメールで非公式の打ち合わせを実施し、上記議題について適宜追加の検討を行った。

◆ 学会活動

- 2021年5-6月に開催されたJpGU2021年大会にて、「[S-CG47]地殻表層の変動・発達と地球年代学/熱年代学の応用(表層変動と年代学)」セッションを開催した。前年度は英語セッションとして開催したが、今年度は国内での普及を重視して、日本語セッションで開催した。招待講演には、産総研の白濱吉起博士と、原子力機構の中嶋徹博士を招聘した。
- JpGU全体では前年度より投稿数が大幅に減少する中、本セッションは、2021年5月現在で計11件の投稿を確保し、前年度(13件;海外からの招待講演2件を含む)の水準を維持することができた。

◆ 教育・アウトリーチ活動

- コアメンバーの新規加入に伴いFGのHPおよびMLを更新した。
- 前年度に作成したFGのロゴマークを学会発表等に使用し(あるいは周囲の学生にも使用を呼びかけ)、本FGの知名度向上および活動内容の周知に努めた。
- 2021年2月20日、ESR・ルミネッセンス・FT合同研究会をオンラインにて開催され、本FGの活動内容を周知した。また、同日のFT研究会総会では、2021年以降のThermoの開催に関する情報共有・相談が議題の一つとして取り上げられた。

◆ その他

- 2021年9/12~17に開催予定のThermo2021(コロナ禍の影響で延期されたThermo2020;<https://thermo2020.us/>)は、現地開催とWeb開催のハイブリッド形式で実施する方向で調整中である。また本大会に先立ち、virtual thermoと題された若手研究者の発表中心のセッションが、2020年11月から2021年5月現在までに計7回(2020年度分のみだと計6回)、オンラインで実施された(<https://thermo2020.us/virtual-thermo2020/>)。

- ◆ 今後の活動予定（次期二か年の展望）
 - JpGUセッション（表層変動と年代学セッション）の提案・開催と、ESR・ルミネッセンス・FT合同研究会の開催の継続（毎年）
 - Thermo2021@米・Santa Feの参加と発表（特に若手研究者を中心に）
 - Thermo2023@伊・Riva del Gardaに向けた準備
 - ・ Thermo2025@日のプロモーションが必要
 - 関連分野の国際会議における参加，発表，セッション提案などを通じたコミュニティの宣伝と拡大
 - ・ AGUやLED2021 (<https://led2021.wordpress.com/>) などが候補
 - ・ 発表等にはFGロゴを積極的に活用
 - 海外の熱年代コミュニティとの共同研究の継続・発展（以下は主な例）
 - ・ 飛驒山脈の削剥史研究（独・LIAG, 仏・パリ大, 瑞・ローザンヌ大）
 - ・ 東北日本孤の削剥史研究（豪・メルボルン大, 独・LIAG）
 - ・ 島弧山地の隆起メカニズムの解明（比・フィリピン大, 豪・メルボルン大）
 - ・ 陸弧や衝突帯にも拡大予定（勃・ソフィア大など）
 - ・ 地形解析と熱年代を統合的に用いた隆起・削剥評価
 - ・ 気候変動による削剥速度への影響の評価（独・LIAG, 瑞・ローザンヌ大）
 - ・ 地震断層の活動性評価（独・LIAG, 豪・CSIRO）
 - ・ スラブ起源流体の活動履歴／影響範囲の評価（豪・メルボルン大）
 - ・ 大規模火山活動履歴の解明（豪・カーティン大）
 - ・ OSL熱年代のボーリングコア試料への応用（瑞・ローザンヌ大）
 - ・ ESR熱年代の実用化に向けた基礎研究（独・LIAG）
 - ・ FT長計測のラボ間比較実験（米・テキサス大, 豪・メルボルン大）
 - ・ 年代標準試料の探求（豪・メルボルン大）

以 上